

日本財団助成事業「わくわくサンゴ石垣島」サンゴ学習プログラム

白保魚湧く海保全協議会 作成

「サンゴ水槽学習」

■概要

現在、石垣島唯一の生きたサンゴを見ることの出来る展示水槽を活用し、「サンゴ」について学ぶとともに、「サンゴ」の棲息を支えるための環境条件について水槽システムと自然界との対比を通じて学ぶ。

・時間 45分

(島の暮らしとサンゴ礁の講義とあわせて実施することが効果的)

■目的

- ・サンゴ礁域に暮らす子どもたちへ、自身の暮らす島の自然（サンゴ、サンゴ礁）への理解を深めるきっかけを提供する。
- ・生きたサンゴを教材として、サンゴが動物であることを実感してもらう。
- ・サンゴを水槽で飼育するための仕組み（設備、システムなど）を通して、自然の仕組みに気付く機会を提供する。
- ・サンゴの棲息する環境の脆弱性と保全の必要性について気づくきっかけを提供する。

■背景

サンゴ礁の海に囲まれた石垣島。しかし、島の人々の多くが生きた状態のサンゴを見たことはありません。海岸に転がるサンゴの遺骸（骨格）を見てサンゴは石であるとの認識が一般的です。一方、観光立市を進める石垣市にあって、サンゴが重要な観光資源として認識され、その保全が課題となっています。

■教材

- ・サンゴ水槽
- ・ワークシート

■進め方

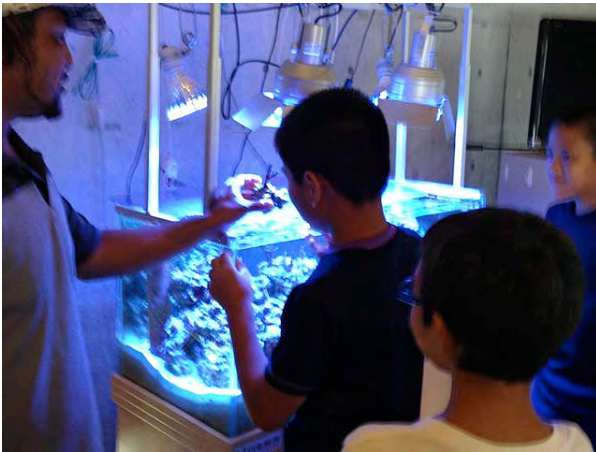
しらほサンゴ村のレクチャー室に設置しているサンゴ水槽を観察し、それぞれ気付いたことをワークシートに書き出す。顕微鏡を使い、サンゴのポリプを拡大し、観察することでサンゴが動物であることを実感する。サンゴを手にとって、匂いを嗅いでみる。水槽を維持するためのシステムの紹介を通じて、それぞれの機能が自然界では何を表しているかを考え、ワークシートに記入する。実際の石垣島の海の状況を写真等で示すこ

とで、サンゴ保全のために何が出来るのかをグループで討論し、提案をまとめる。

■まとめ

本物の教材（生きたサンゴ）を使って授業を行うことで、子どもたちにより関心を持ってサンゴやサンゴ礁の海の仕組みを学んでもらうことが出来ます。自然界は複雑な条件が絡み合って成り立っていますが、水槽システムはその仕組みをシンプルに、わかりやすくまとめているものであることから、サンゴの棲息する環境の全体像を解りやすく提示することが出来るため、子どもたちが自然の仕組みを理解する一助になることが期待されます。

○水槽学習



環境条件について

